



Sophia University

「2020年度からの英語教科化に向けて」

吉田研作(上智大学)

yosida-k@sophia.ac.jp

<http://pweb.sophia.ac.jp/1974ky>

育成を目指す資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

自主的・対話的な深い学び

(アクティブ・ラーニング)

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。**発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等**が含まれるが、教室内のグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

(平成25年12月13日発表)

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め2014年度から逐次改革を推進する。

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

○小学校中学年:活動型・週1~2コマ程度

- ・コミュニケーション能力の素地を養う
- ・学級担任を中心に指導

○小学校高学年:教科型・週3コマ程度

(「モジュール授業」も活用)

- ・初步的な英語の運用能力を養う
- ・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う

※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

○中学校

- ・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
- ・授業を英語で行うことを基本とする

○高等学校

- ・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う
- ・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備(平成26年度から強力に推進)

○小学校における指導体制強化

- ・小学校英語教育推進リーダーの
加配措置・養成研修
- ・専科教員の指導力向上
- ・小学校学級担任の英語指導力向上
- ・研修用映像教材等の開発・提供
- ・教員養成課程・採用の改善充実

○中・高等学校における指導体制強化

- ・中・高等学校英語教育推進リーダーの養成
 - ・中・高等学校英語科教員の指導力向上
 - ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の
英語力の達成状況を定期的に検証
- ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80点程度等以上の英語力を確保

○外部人材の活用促進

- ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人
材等の活用促進(ガイドラインの策定等)
- ・ALT等向けの研修強化・充実

○指導用教材の開発

- ・先行実施のための教材整備
- ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上(高校卒業段階で英検2級～準1級、TOEFL iBT57点程度以上等)

→外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証するとともに、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

3. スケジュール(イメージ)

○2014年1月頃 有識者会議設置

○2014~2018年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大

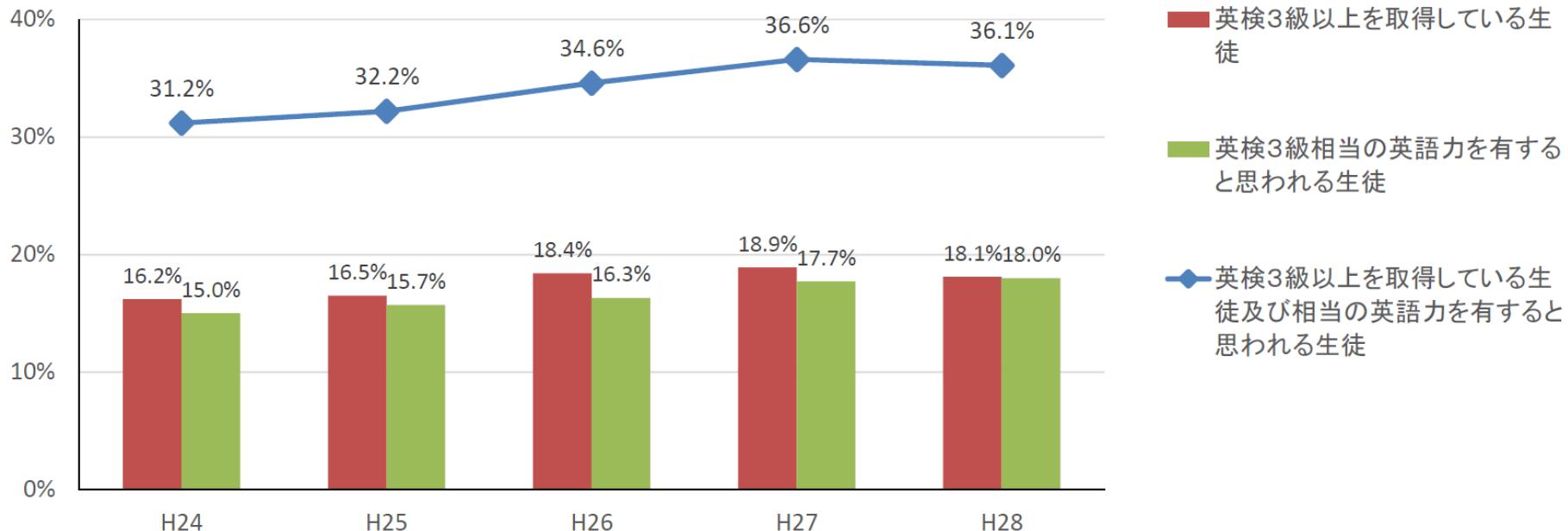
○中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施

○東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面実施

文部科学省の目標

中学生 英検3級

生徒の英語力の状況



※H24の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的な施策』に係る状況調査」

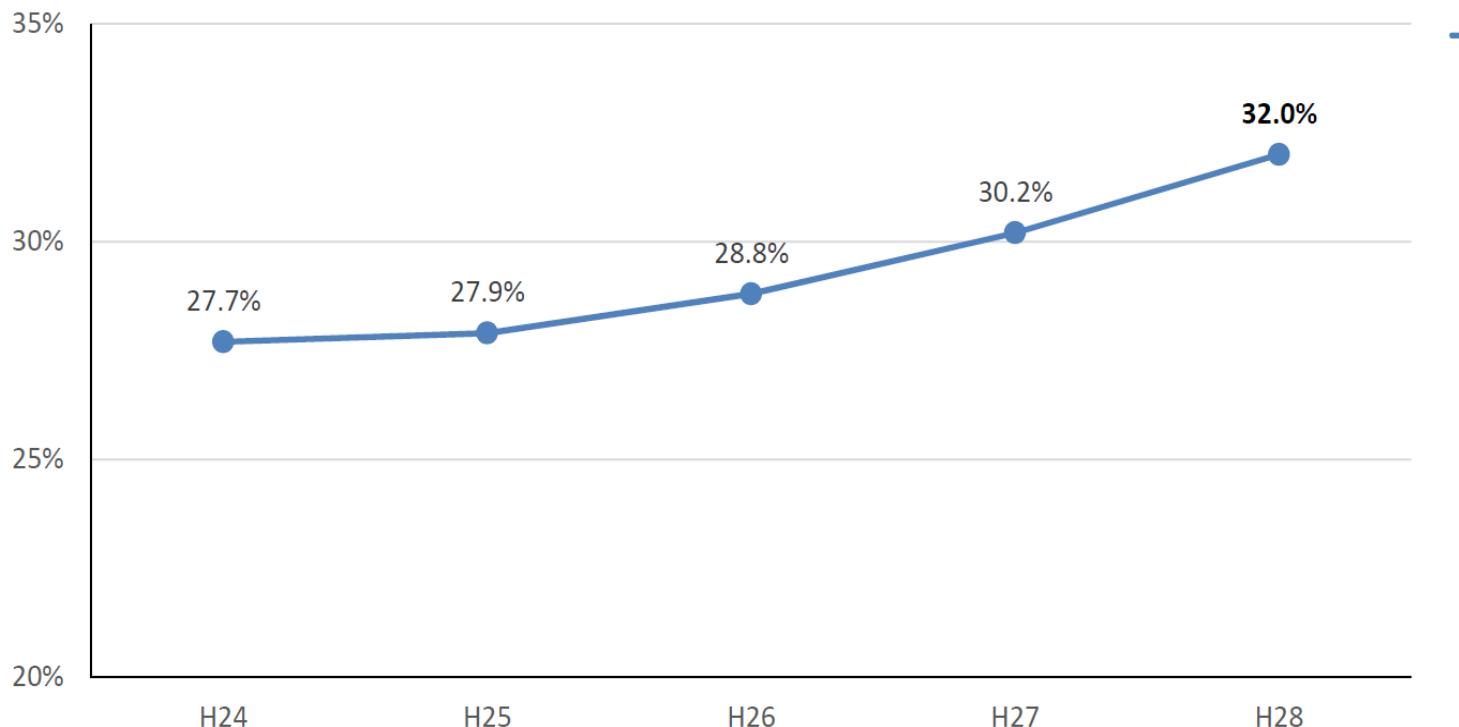
※第2期教育振興基本計画では、中学校卒業段階での英検3級程度以上を達成した中学生の割合50%を目標とする。

Goal → 50%

英語教員の英語力

英検準1級

英語担当教員の英語力の状況



英語担当教員のうち、
CEFR B2レベル以上を取
得している教員の割合

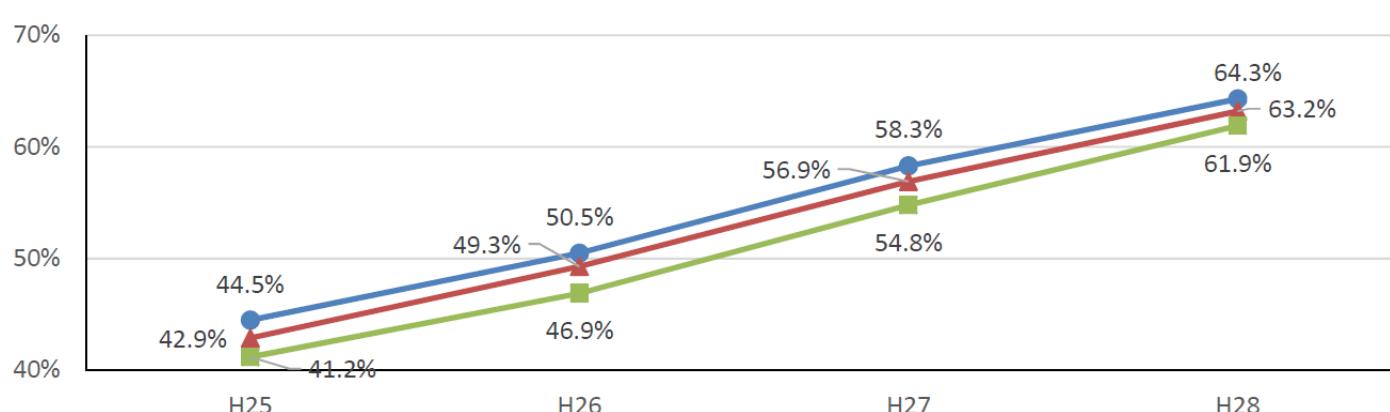
※第2期教育振興基本計画で
は、英検準1級程度以上
(CEFR B2レベル以上)を取得
した英語担当教員の割合を
50%以上を目標としている。

※対象教員は、英語の授業を
担当している校長、副校長、
教頭、主幹教諭、指導教諭、
教諭、助教諭、講師(常勤に
限る。)とし、臨時的任用の者
及び非常勤講師は含まない。

※本調査は英検準1級以上、TOEFL PBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上、TOEIC730点以上のほか、GTEC、国連英検、ケンブリッジ英検などの試験結果において、CEFR(外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通言語参照枠)のB2レベルに相当するものとして、「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について」(平成27年3月31日付け26文科初第1495号)などの通知や、英語4技能資格・検定試験懇談会における「資格・検定試験CEFRとの対照表」などを参考に、各教育委員会において判断した教員の割合である。

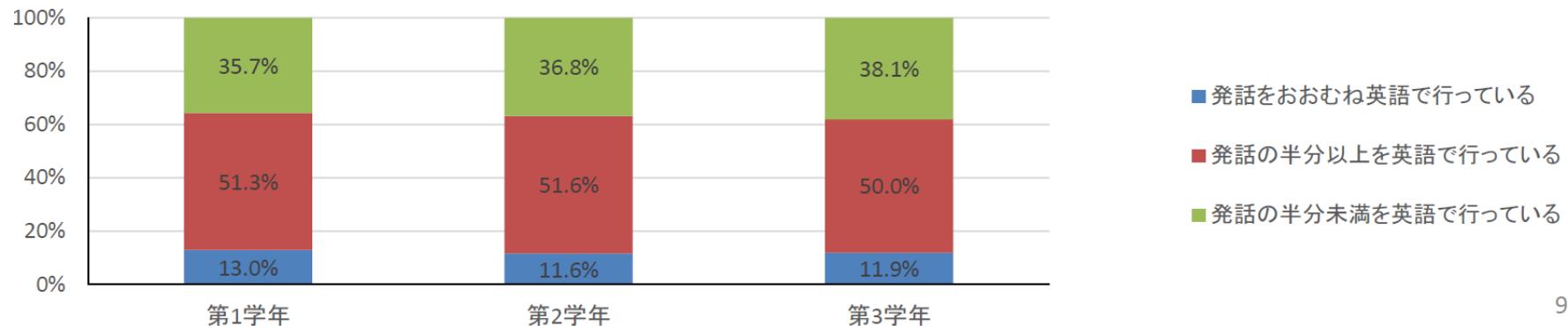
英語で授業での英語の使用について

授業における英語担当教員の英語使用の割合



※授業において教員が「発話をおおむね英語で行っている」又は「発話の半分以上を英語で行っている」と回答した教員の割合

授業における英語担当教員の英語使用の割合



中学校

英検3級以上の生徒数
が多い都道府県

	2015		2016	
12 千葉県	52.1	29 奈良県	48.00%	
5 秋田県	48.6	13 東京都	47.10%	
13 東京都	47.9	18 福井県	46.50%	
17 石川県	47.8	12 千葉県	45.90%	
18 福井県	42.7	17 石川県	43.90%	
14 神奈川県	41.9	16 富山県	41.70%	
11 埼玉県	41.6	10 群馬県	39.80%	
31 鳥取県	40.7	36 徳島県	39.60%	
10 群馬県	40.4	11 埼玉県	38.30%	
26 京都府	40.4	5 秋田県	37.10%	
		25 滋賀県	37.10%	

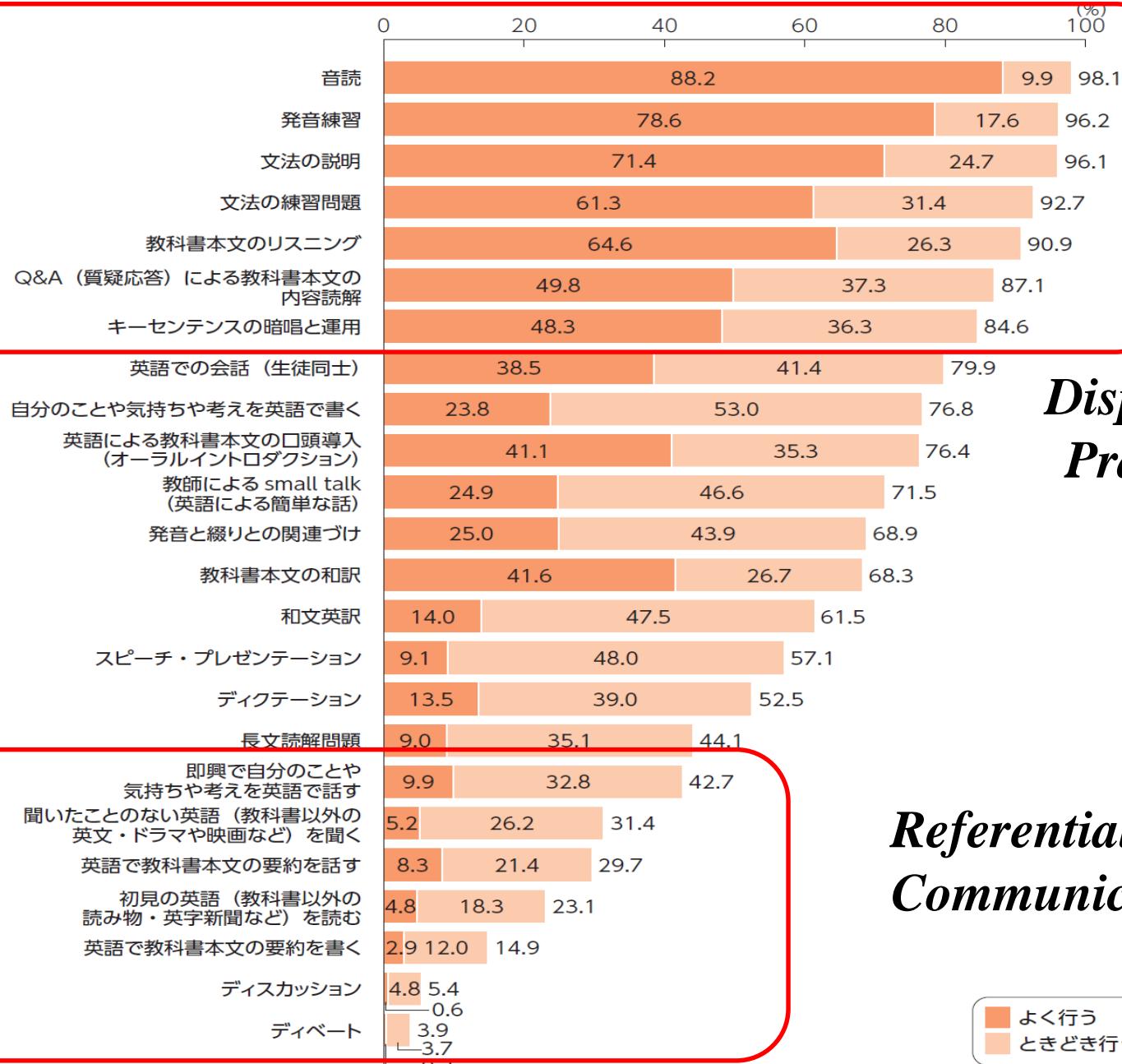
英検準1級以上の教員数
が多い都道府県

	2015		2016
18 福井県	51.7	18 福井県	56%
16 富山県	48.7	36 徳島県	49%
13 東京都	45.3	16 富山県	48%
17 石川県	41.7	13 東京都	47%
34 広島県	41.1	34 広島県	39%
36 徳島県	41	17 石川県	39%
14 神奈川県	36.6	25 滋賀県	39%
25 滋賀県	35.9	23 愛知県	34.5
23 愛知県	34.5	47 沖縄県	37%
47 沖縄県	34.2	41 佐賀県	36%
		45 宮崎県	36%
		44 大分県	35%
		29 奈良県	35%

英検3級以上の生徒の数と英検準1級以上の教員数の相関

$$r=0.401$$

図 1-1 指導方法・活動内容 (中学校)



*Display &
Practice*

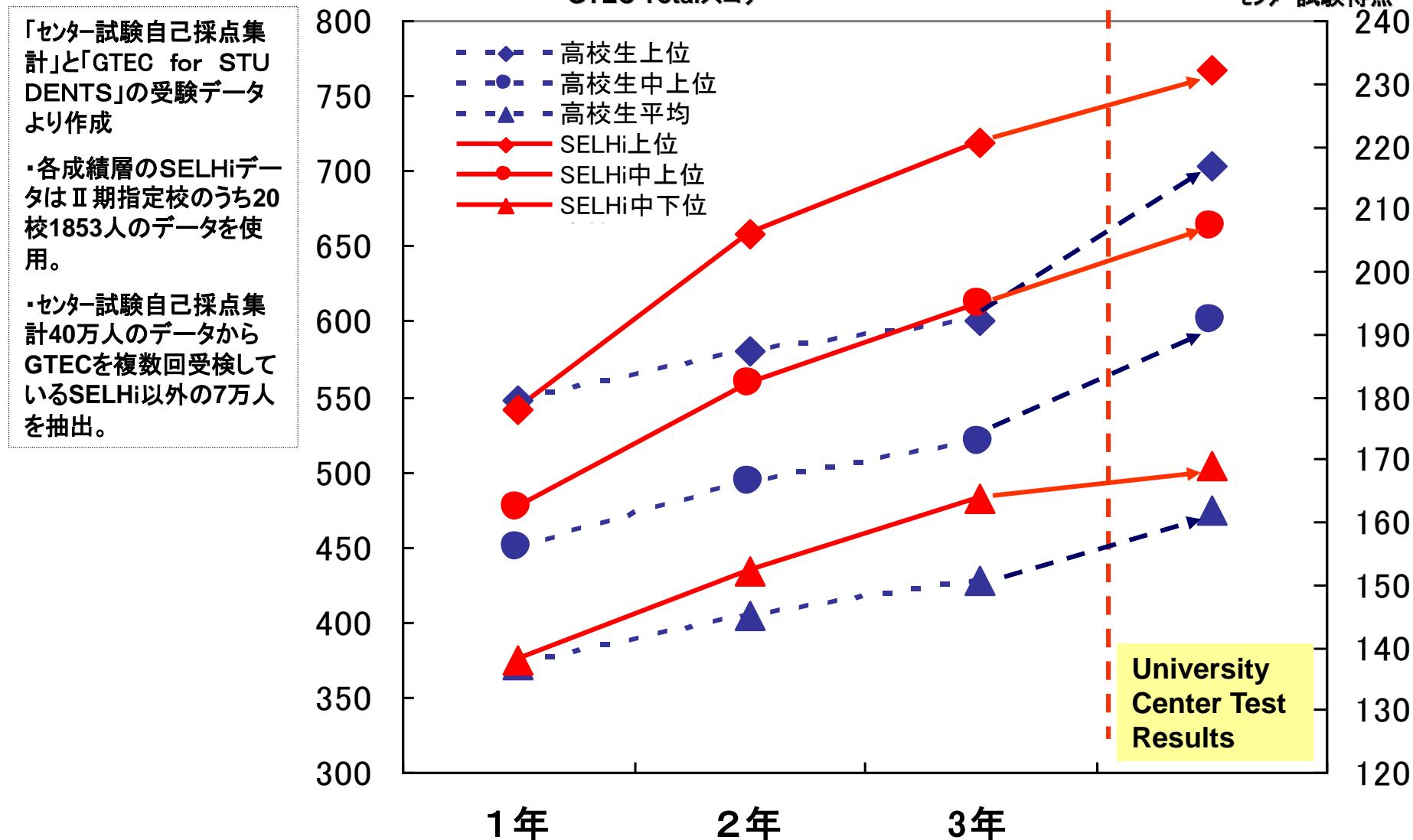
*Referential &
Communicative*

よく行う
ときどき行う

**コミュニケーション中心の英語指導で
入試に対応できるのか**

■SELHiの英語教育の成果 -Ⅱ期校のGTECとセンター試験の結果より-

- SELHiの英語力伸長度は各成績層とも一般校を上回る
- SELHiの取り組み・指導は入試の結果(センター試験英語)にもつながる



小学校英語教育の現状と目標

外国語活動

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働きかせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- (1) 外国語を通して、言語や文化について**体験的に理解を深め**、日本語と外国語との音声の違い等に**気付くとともに**、外国語の音声や基本的な表現に**慣れ親しむ**ようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考え方や気持ちなどを**伝え合う力の素地**を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて**コミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。

外国語

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに**気付き**、これらの**知識を理解するとともに**、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる**実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能**を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、**身近で簡単な事柄について**、**聞いたり話したりするとともに**、**音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり**、**語順を意識しながら書いたりして**、**自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う**。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**他者に配慮しながら**、**主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う**。

思考力・判断力・表現力

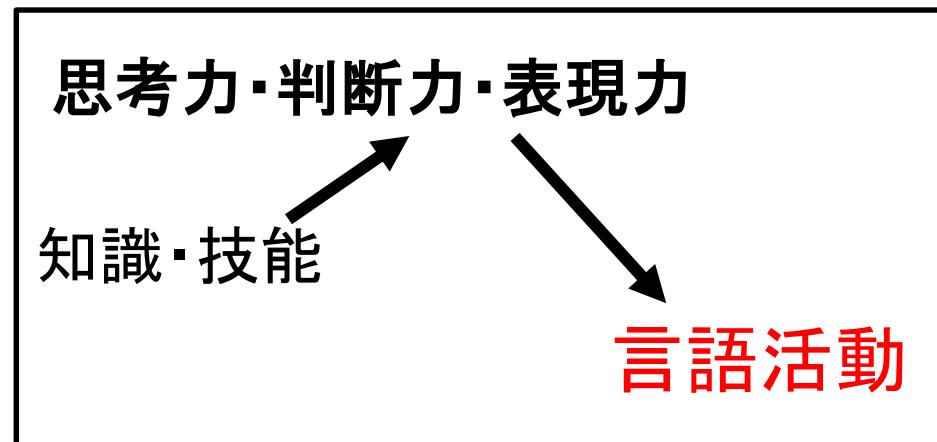
(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

* (1) = 知識・技能(言語的知識と個別技能)



聞くこと

- (ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
- (イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。
- (ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。

読むこと

- (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
- (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
- (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
- (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

話すこと[やり取り]

- (ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。
- (イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
- (ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動

話すこと[発表]

- (ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。
- (イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。
- (ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域にすることなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

書くこと

- (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。
- (イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
- (ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
- (エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

帰納的な言語形式の習得を目指す

- ・「知識及び技能」については、**実際に外国語を用いた言語活動を通して**、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに**気付き**、これらの知識を理解するとともに、「読むこと」、「書くこと」に**慣れ親しみ**、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」による**実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにすることとした。**
- ・「思考力、判断力、表現力等」については、具体的な課題等を設定し、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて**、**情報や考えなどを表現することを通して**、**身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに**、**音声で十分に慣れ親しんだ外国語の簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり**、**語順を意識しながら書いたりして**、**自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができるよう指導することとした。**

小学校の外国語科においては、文及び文構造を基本的な表現として扱うことが意図されている。例えば、小学校の外国語科においては、得意なものを紹介し合う活動において I am good at playing tennis. という表現に触れて、その意味を把握したり、自ら活用したりするが、「代名詞」の用法や「動名詞」の用法について理解し活用するのは中学校の段階で扱う。

なお、he や she などの人称代名詞を含む文を扱う際には、児童の発達の段階を考慮して、その場にいない人を話題にするなどの場面設定をし、児童が he, she などの使い方を言語活動を通して分かるようにするとともに、文法の解説をしたり複雑な文になつたりしないように留意することが必要である。

小学校の外国語科においては、動名詞や過去形を文から取り出して指導することはしない。例えば、好きなものを伝えるときに、I like playing tennis. と表現することを指導するが、playing tennis の部分に焦点をあてて、動名詞の使い方を理解させ、Playing tennis is fun. などの異なる表現の中で活用することを指導するわけではない。

短時間学習をどうする

モジュール学習の年間指導計画作成・回数等の状況

- モジュール学習（教育課程内に実施）の年間指導計画は、平成27年度は83.2%の学校が作成している。
- モジュール学習（教育課程内に実施）の回数等の状況は、平成26年度は「**10分以上15分未満**」かつ「週3回」が28.4%と最も多く、次いで「**15分以上20分未満**」かつ「週1回」が17.5%となっている。

	5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 15分未満	15分以上 20分未満	20分以上					
1回	8	1.4%	29	5.2%	45	8.1%	97	17.5%	21	3.8%
2回	0	0.0%	4	0.7%	10	1.8%	15	2.7%	33	6.0%
3回	0	0.0%	1	0.2%	157	<u>28.4%</u>	22	4.0%	1	0.2%
4回以上	2	0.4%	52	9.4%	29	5.2%	18	3.3%	9	1.6%

※時間は1回当たりの時間とする。年間を通じて時間が均一でない場合は、平均的な時間とする。

時数	タイトル 単元目標	表現例（児童の発話例） 語彙例（児童が使う語彙例）	活動例								
			1	短時間学習①	2	短時間学習②	3	短時間学習③	4	短時間学習④	5
8 単位 時間	What time do you get up? 一日の生活 ・小文字の書き方や、一日の生活について尋ねたり答えてたりする表現が分かる。 ・自分の一日の生活について、まとまりのある話を伊豆氏でその概要が分かたり、順序立てで伝え合うとともに、一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、書き出す。 ・他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合うとする。	<p>What time always, usually, sometimes, never, at, 手伝いの表現 (take (get up) at 8:00), I always wash the dishes).</p> <p>always, usually, sometimes, never, at, 手伝いの表現 (take (get up) at 8:00), I always wash the dishes), wash the garbage, wash the dishes, set the table, walk the dog, clean the room, get the newspaper, check the mail, do my homework, brush my hair, comb my hair, feed the pet など)</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。世界の子供たちの生活と、自分達の生活との共通点や相違点に気付くとともに、日課を表す語句が分かる。</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。頻度を表す語や、日課を表す語句が分かる。◆生活についてまとまりのある話を聞いて分かるとともに、日課の時刻を尋ねたり答えてたりする。◆正しい頻度を選んで書き出す。</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。頻度を表す語が分かる。◆生活についてまとまりのある話を聞いて分かるとともに、日課の時刻を尋ねたり答えてたりする。◆正しい頻度を選んで書き出す。</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。◆日本についてまとまりのある話を聞いて分かるとともに、一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、語と語の区切りに注意して書き出す。</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。◆日本についてまとまりのある話を聞いて分かるとともに、一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、語と語の区切りに注意して書き出す。</p> <p>◆小文字の書き方を知り、書く。◆日本についてまとまりのある話を聞いて分かるとともに、一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、語と語の区切りに注意して書き出す。</p> <p>◆文字を書く。◆自分の一日の生活について、相手に伝えるなどの目的を持つて、相手に伝えるなどの目的を持つて、順序立てで伝え合う。</p> <p>◆他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合うとする。</p>	○Small Talk: 先生の朝の日課①	○Small Talk: 先生の朝の日課②	○Small Talk: 先生の平日の日課①	○Small Talk: 先生の平日の日課②	○Small Talk: 先生の週末①	○Small Talk: 先生の週末②	○Small Talk: 先生の週末③	○Small Talk: 特別な日	
			[Let's Play] ホイティングゲーム（頻度）	[Let's Chant] What time do you get up?	[Let's Chant] What time do you get up?	[Let's Watch and Think] 世界の子供たちはどんな頻度でどんな行動をしているのかが分かる。	[Let's Listen] 登場人物がどんな頻度でどんなことをしているのかを聞き取り、番号を記入する。	[Let's Play] 日課について時間を伝え合う。	[Let's Listen] 音声で聞き取る。それがどんな頻度でどんな行動をしているのか等について聞き取って記入する。	[Activity] ペアで相手を紹介する準備をする。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。
			[Let's Watch and Think] 世界の子どもたちの一日について知る。自分達の生活との共通点や相違点等気付いたことを発表する。	[Activity] ペアになり互いにWhat time do you (get up)?と尋ね、時間を記入する。	[Activity] 先生の生活について聞き取り、時間を探します。次にペアになり、日常生活について尋ねたり答えたりする。	[Activity] 音を聞いて、表に名前や時間を記入し、日常生活について尋ねたり答えたりする。	[Activity] 日常の行動について全員で尋ね、該当するカードを持っている児童は頻度を含め答える。	[Activity] 音を聞いて、表に名前や時間を記入し、日常生活について尋ねたり答えたりする。	[Activity] デジタル教材を活用して仲間の言葉を集めます。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	
			○フェントリート	○Buzz Game 1~60	○キーフレーズゲーム（日課の表現）	○お話を聞く 2度目の読み聞かせを聞く。	○Let's Read and Write 日課について、語と語の区切りに注意して英文を書き写す。	○Let's Read and Write 日課について、語と語の区切りに注意して英文を書き写す。	○Let's Read and Write デジタル教材を活用して仲間の言葉を集めます。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	
			[Let's Chant] What time do you get up?				○Let's Read and Write 日課について、語と語の区切りに注意して英文を書き写す。	○Let's Read and Write 日課について、語と語の区切りに注意して英文を書き写す。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	
									○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	
									○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	
									○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	○Activity ペアで相手を紹介する準備をする。	

外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置（案）

参考資料1

【小学校】

◆小学校移行期間(平成30・31年度)中の5・6年生

- 新たに年間15単位時間を加え、50単位時間を確保し、外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容を扱う。外国語科の内容については、中学校との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に取り扱う。
- 教材は、Hi, friends!（現行学習指導要領に対応した5・6年生外国語活動用教材）や、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容を配布する。

◆小学校移行期間(平成30・31年度)中の3・4年生

- 新たに年間15単位時間を確保し、外国語活動を実施する。高学年との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に取り扱う。
- 教材は、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容を配布する。

【中学校】

◆中学校移行期間(平成30～32年度)のうち、平成31・32年度の1・2年生

- 授業時数は追加せず、小・高等学校との接続の観点から、知識・技能について新たに追加した内容と、それを活用して行う言語活動を計画的に指導する。

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
					小学校全面実施	
					中学校全面実施	
					※年次進行で実施	高等学校
平成17年度生まれ～	小6(35)	中1 ※平成29年度中に必要な教材を配布	中2 ※平成30年度中に必要な教材を配布	中3	高1	高2
平成18年度生まれ～	小5(35)	小6(+15→50)	中1	中2	中3	高1
平成19年度生まれ～	小4	小5(+15→50)	小6(+15→50)	中1	中2	中3
平成20年度生まれ～	小3	小4(+15)	小5(+15→50)	小6(70)	中1	中2
平成21年度生まれ～	小2	小3(+15)	小4(+15)	小5(70)	小6(70)	中1
平成22年度生まれ～	小1	小2	小3(+15)	小4(35)	小5(70)	小6(70)
平成23年度生まれ～	年長	小1	小2	小3(35)	小4(35)	小5(70)

…外国語活動移行措置

…外国語科移行措置

…中学校移行措置

※中学校の時数は現行と同様、年間140単位時間程度。

※生まれ年度はイメージとして示している。

誰が教えるのか？

現状

小学校で専科指導を行っている学校の割合は
低い(5年生は5.8%、6年生は6.2%)

小学校教員で中学校外国語科の免許状を有する者は約4%

文部科学省「教育課程の編成・実施状況調査(H25)」

外国語活動

○ ALTや外国語が堪能な地域人材とのチーム・ティーチングを行いながら、児童の実態を把握し、指導に生かすことができる学級担任が重要である。

・地域の実情を踏まえ、学級担任とALTや専科指導を行う教員、学級担任と英語が堪能な外部人材とのチーム・ティーチングを行うなど柔軟な指導体制が整備されることが必要である。

教科としての英語

○高学年における英語指導に求められる教員と外部人材の資質・能力・資格要件

- ・児童への指導に当たっては、**英語教育に関する専門性を前提**としながらも、**児童理解の観点、他教科等と連動した学習内容・活動を行う観点**から、**学級経営を基盤とした授業の実施等**に対応できる指導者が求められる。
- ・専門性を有する適切な人材に**特別免許状を積極的に授与し活用することや、英語が堪能な地域人材、英語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる**

教科横断・合教科型の内容

小学校

児童への指導に当たっては、**英語教育に関する専門性を前提**としながらも、**児童理解の観点、他教科等と連動した学習内容・活動を行う観点**から、**学級経営を基盤とした授業の実施等**に対応できる指導者が求められる

中学校

他教科での学習内容、学校生活における活動、地域行事、生徒の体験等と関連付けることで、文法訳読に偏ることなく、互いの考え方や気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を構成することが可能になる

高等学校

高等学校では、中学校との円滑な接続を図りながら、**国際社会の多様性に対応した目標・内容を設定し、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動の高度化**を図ることが適当である。

今後の英語教育の改善・充実方策について(報告)～グローバル化に対応した英語教育改革 の五つの提言～

小学校担任の利点

全教科を教えている



英語を使って、理科、社会、家庭科、図画工作、音楽

昆虫採集 → 生息地

Firefly → water

Beetle → tree

Cricket → grass

References

Benesse (2015) 中高生の英語学習に関する実態調査2014

<http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4356>

Benesse (2015) 中高生の英語指導に関する実態調査

http://berd.benesse.jp/up_images/research/Eigo_Shido_all.pdf

CLIL International Research Journal (<http://www.icrj.eu/>)

Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests 2015

https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf

「国際共通語として英語力向上のための5つの提言と具体的な施策」(平成23年7月13日)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/082/houkoku/1308375.htm

文部科学省(2017)次期学習指導要領 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383995.htm

文部科学省(2017) 平成28年度「英語教育実施状況調査」の結果

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1382899.htm

文部科学省(2013)外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議(第7回)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryo/1330903.htm

文部科学省(2014)今後の英語教育の改善・充実方策について報告～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言～ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm

東京都教育委員会(2016) 東京都英語教育線逆会議最終報告書

渡部、池田、和泉(編著) 2011 『CLIL内容言語統合型学習:上智大学外国語教育の新たな挑戦、第1(原理と方法)』(上智大学出版)

渡部、池田、和泉(編著) 2012 『CLIL内容言語統合型学習:上智大学外国語教育の新たな挑戦、第2巻(実践と応用)』(上智大学出版)